

都内お花見 有栖川記念公園と麻布十番散策

～春の桜を満喫しました～

企画委員会

2025年東京の桜開花の気象庁の見立てでは3月28日が満開でした。寒の戻りがあったり、気温20度の陽気があったりですべてお天候次第で、結局WSCのお花見3月27日は、程よい咲き加減の桜を愛でることができました。

今回のお花見で訪れたのは都心ど真ん中、高級住宅地広尾の地にある有栖川記念公園です。台地の地形を取り込んだ広い日本庭園に、楚々とした桜木が品よく花を魅せていました。家族連れが集う昔風のお花見風景がそちこちに見られ、騒がしくないお花見の風情を醸し出していました。

お花見を堪能した後は、麻布十番へ健康散策をしました。江戸時代には麻布山善福寺の門前町として栄え、現在ではお洒落な商店街として賑わっていますので、移動してこの雰囲気になりました。坂道を登り下りするテクテクよく歩いたお花見でした。この企画の仕上げは麻布十番駅近くのお店での懇親会、参加者の健脚に祝杯をあげました。

2025年 有栖川記念公園の桜は見ごろ

有栖川記念公園の中心の高台に桜木があり、開花は見頃でした。子どもの元気な声が聞こえ、家族連れの風情も楽しい花見風景でした。

日時：2025年3月27日（木）午後半日

目的：有栖川記念公園、麻布十番商店街

集合：地下鉄日比谷線広尾駅 出口1 午後2時

解散：地下鉄南北線麻布十番駅付近 午後4時

参加費：なし

費用：現地往復交通費、各自支払

参加者：15名

リーダー：

順路：集合；地下鉄広尾駅出口1 → 徒歩 →

有栖川記念公園 → 観桜散策1時間 → 移動 →

徒歩50分 → 麻布十番商店街 → ショッピング →

解散 → 懇親会（有志） 万歩計：7千歩

懇親会：解散後、有志が地下鉄南北線麻布十番駅近くにあるお店で懇親を深めました。



有栖川記念公園

みんなニコニコ



有栖川記念公園



都内広尾にある有栖川記念公園は、江戸時代は南部藩の下屋敷でした。1896（明治29）年、有栖川宮家の御用地になり、1934（昭和9）年に公園として一般に開放されました。さまざまな木々、池、水の流れなどなど、豊かな自然を感じられる公園です。

麻布台の変化に富んだ地形を生かした日本庭園形式で、春の梅と桜、初夏の花菖蒲、夏の紫陽花、秋の紅葉、そして冬の雪模様など、四季折々の様変わりを観ることができます。



肝心のお花見のことです。幾組かの家族連れが、ピクニック風に楽しく上品に楽しんでいました。子どもと親、そして知り合いと同じ場で、共通の時間を過ごす、ここには豊かな時間の流れを感じました。



地域柄でしょうか、外国人の家族のお花見の風景も散見されました。この地域には、外国の大使館が多くあり、そこに勤める方々ではなかろうかと推定しました。母国に戻った折には、観桜の趣を日本文化の一端として紹介してほしいものです。



有栖川記念公園は広いのですが、いかんせん都会のど真ん中にあります。公園の周りの高層建物が、桜を見降ろします。上から見る公園の桜は、どのような風景になるのでしょうか。



有栖川記念公園の花

今回は、春の風情を大いに楽しみました。桜の咲き具合を愛で、ほんの少々の花びらの舞う風情も鑑賞できました。花が散る様子は、時間の移ろいと奥行きを感じさせてくれました。



この庭園にはいろいろな色がありました。花海棠の

淡い紅色は、新緑の中で際立ちました。黄色の花は、一重の山吹でした。庭園の諸所には、スマレや菊が花開き堇色、白色、などなど絵具のパレット状態でした。



ここは日本庭園ですので、趣向を凝らした池の淵には薄紫の菖蒲があり、水面を滑る水鳥あり、石造りの橋あり、そそぐ小滝がありと被写体には事欠かない豊かな趣でした。

有栖川記念公園の3体の像

公園の中ほどに「笛ふき少年」の像がありました。

笛を吹きながら真っすぐ前を見ている少年、これからの未来を見つめているようでした。



「新聞配達少年像」もありました。日本全体がまだ貧しく、1950年代の新聞配達少年は日常の朝の風景でした。家計を助ける少年の健気さを感じました。



この公園は明治中頃に皇族有栖川宮家の御用地でした。その「有栖川宮熾仁親王騎馬像」もありました。明治の気概を感じさせ、さっそうと馬を乗りこなす像です。1903年の作だそうですが、翌年に日露開戦があり緊張感も感じました。



国土地理院三角点

有栖川記念公園の芝生広場の奥に、地図の基準点である三角点がありました。三等三角点で海拔31.21mでした。

ちなみに、日本経緯度原点は近くの麻布台2丁目にあります。ここは、明治21年に東京天文台が設置された場所です。



麻布台の桜

有栖川記念公園の脇の南部坂を登り、仙台坂上から麻布十番の街に行く途中にも桜並木でした。



その中に大ぶりで華やかな枝垂れ桜があり、春風に優雅にたゆとう姿は見事でした。ソメイヨシノとは趣を異にして眼福でした。

この麻布十番への散策の途中では、この近辺の特徴になっている外国大使館の前を通りました。南部坂にはドイツ連邦共和国大使館、仙台坂上近くにはカタール大使館とアルゼンチン共和国領事館がありました。麻布十番の街を見下ろす一本松交差点の近くに、オーストリア共和国大使館の方向を示す案内板を見ました。

麻布十番の商店街

麻布十番商店街は、六本木や東京タワーが近くにあります。江戸時代からの昔風の商店街と最先端の洗練された街並みがある、風情のある魅力に富んだ場所です。近くに、世界各国の大使館がずらりとあり、国際色も豊かです。

今どきの麻布十番

印象的には、国際色豊かな高級住宅街です。明治の時代からあるオーストリア大使館は、暗闇坂に沿ってあります。

一方、下町的雰囲気もあり住みやすそうな感じも受ける地域です。治安が良いのは、有名です。

街の佇まいとしては、小洒落た食べもの屋さんが多く並び、世界の料理を選択できます。

老舗の名店

手焼きせんべい、老舗たいやき、豆菓子、更科などなどは、昔風のお店です。パテオ十番



商店街の中ほどで坂道の途中に、パテオがあります。櫓と石段があり小ぶりながらも、緑陰が爽やかでした。

「きみちゃんの像」

このパテオには、野口雨情の童謡「赤い靴」に歌われている、おさげ髪の女の子の像がありました。親と別れ、アメリカ人宣教師に預けられ幸せに暮らしていたはずでしたが、……。『赤い靴履いた女の子、異人さんに連れられていいちゃった。……。』本当は、病のため東京の孤児院で短い生涯を閉じていました。



麻布十番の江戸切絵図

江戸時代、大名屋敷が立ち並んでいたのが麻布十番から広尾にかけてです。



有栖川

記念公園は、江戸時代には、南部美濃守の屋敷で地形は現在と同じです。麻布十番に通じる道の仙台坂は、現在も同じ道筋です。

西側の地域には町人地があり、善福寺の門前町として栄え現在も商店街として賑やかです。この地域を取り囲むように流れる古川（上流は渋谷川）にかかる一の橋は、荷揚げ場がある水運の要所で商品の集積地としても栄えていました。

麻布十番で懇親会

麻布十番の街で、人の温もりが大いに感じられる居酒屋さんで懇親会をもちました。全員参加で、3卓に分かれそれぞれ賑やかに楽しく会話が弾みました。今回のお花見は万歩計が7千歩を示し、気温20度越えでしたので生ビールの旨いことこの上なしでした。



麻布十番
大法寺
の桜